

勝林寺寺報



こ本願の風の声

卷之三十六

。毎月初めに届けていた『勝林寺寺報』。心の糧・生活の指針として、わたしのくらしには欠かせない大事な宝物でございます。今月のあの「千の風になって」の詩、反復暗唱し、朝の散歩の友とさせていただいております。

わたしの両親も婆ちゃんもお爺ちゃんも、ずっと昔に亡くなつたけれど、そしてわたしは、なかなかお墓参りもできない遠くに来ちゃつたけど、みんなみんな今も私のこと心配して、千の風、鳥になつて私を念じていてるんだ。

わたしもやがて、この体をすてて死んで行かなければならぬけれど、わたしも同じように『千の風』となつて、この世にのこした子や孫たちの、いやもつと多くの知らない人たちのうえにも吹き渡るに決まつてゐる。

そういうえば、いつかの寺報に（詳しいことは忘れたけれど）、如来さまのお慈悲のなかに生まれ変わさせていただいたなら、今度は

如来様と一緒に仏様の仲間になつてそのお手
伝いをさせていただくのだと。
思つただけでもとてもなんだか楽しくなり
ました。死んでいくことがめでたいことだと
喜ばれたという親鸞様の心がちょっと味わえ
たようで嬉しかつたです。

それからもう一つ考えております

病気なおして、お金持ちにして、心配事から解放して、人とのもめごとを解消して、孫の進学がうまくいきますように……って、わたくしたちいろいろな勝手なお願いやらお祈りをしますわネ。

でも『千の風』って、そんな身勝手な祈りや期待に、オオよしよしと、こたえてくれるようなものでないことはおおよそ見当がつきます。

私が初る初らめ、願う願わぬ、そんなことにはかかわりなく、どんな薄汚い心でいようと、我がまま勝手な生き方をしていようとするの私のまわりに吹いてくる風。それって何だろう。

死んだ父か母かご祖先様が
いやそればかりではない。。。もちろんそれ
をふくめた、なにかもっと大きな「祈り」と
言うか「願い」と言うか。宇宙全体、世界全
体にいつも吹き渡るそれ。そんな風がある。
それが『千の風』。ご法話や寺報でよくきく
「如来さまの願い」「ご本願」。

このごろ本当に朝の散歩がたのしゅうござります。いつ、どこを。どんなのちがあるいていても、鳥がさえずつて雨も降つて、花がほほえんてくれて、日が指して。『千の風』のなか。自然とお念仏がこぼれます。ご本願の風の声と教えてくださいました。

十一

のこがみ



一日	龍野 浄蓮守慶鑑法
二日	本山奉仕文化の日
三日	西女
五日	龍野 浄蓮守慶鑑法
六日	塩津藤田家墓参
七日	東里森戸家三七日
八日	中島 武志氏宅法事
九日	高福寺報恩講
十日	門徒総代研修会（加古川）
十一日	高福寺報恩講
十二日	朗読ボランティアあすなろ
十三日	ビハーラ研修会（出石はこべ）
十四日	ビハーラ研修会（同じ）
十五日	宗学院別科（竜谷大学）
十六日	湯口 良明氏宅法事
十七日	湯口 良明氏宅法事
十八日	清掃奉仕（午後2時）
十九日	本覚寺報恩講
二十日	本覚寺報恩講
二十一日	森友 強氏宅法事
二十二日	斎藤 利夫氏宅法事
二十三日	西方寺報恩講
二十四日	西方寺報恩講
二十五日	西方寺報恩講
二十六日	福成寺報恩講
二十七日	福成寺報恩講
二十八日	下小木木本家忌明
二十九日	正福寺報恩講
三十日	正福寺報恩講
三十一日	横山 弘三氏宅法事
三十二日	東里森戸家五七日

十一月十一日

おみかさ
清掃奉仕

がいこころギーの
奮つてござりますかた
お待ちゆうています

仏教・仏婦・法輪会会長

卷之三

二十二日 勝林寺報恩講
二十三日 真覺寺報恩講
真覺寺報恩講

